

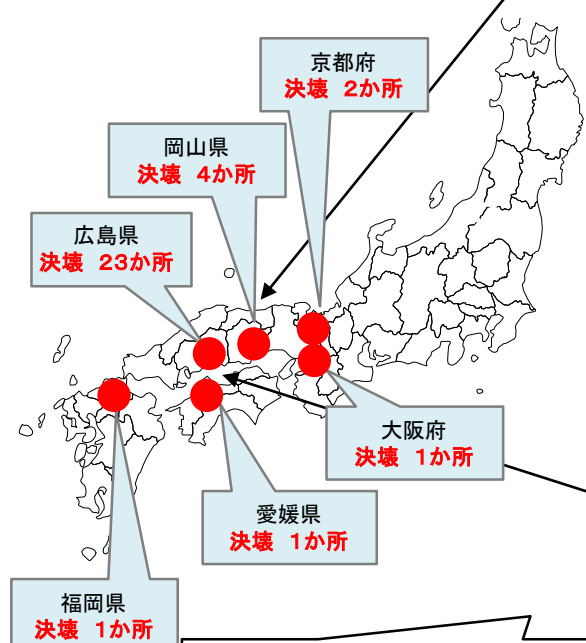
～ため池対策の課題～

- 決壊した32か所のため池のうち29か所が防災重点ため池に選定されていなかった。
- 避難行動に係る判断に必要なため池の現状や豪雨時等の情報収集が十分でない。
- 農業利用されておらず、適正に管理されていないため池が存在する。

平成30年7月豪雨によるため池の被災状況

ため池決壊件数

2府4県
32件



おと おお よこ
広島県 乙池・大池・横池(重ね池)



3連の重ね池のうち、上流側の横池と大池が決壊。下流の乙池は決壊には至らなかった。

しょうぶざこかみ しょうぶざこしも
広島県 勝負迫上池・勝負迫下池



ため池上部のグラウンドの崩壊による土砂流入により、ため池が決壊。ため池下流において、1名死亡、4名負傷。

ため池を巡る課題

【防災重点ため池の選定】

決壊した32か所のうち、防災重点ため池は3か所。人的被害が発生したため池も防災重点ため池に選定されていなかった。

【避難に関する課題】

小規模なため池は、所有者・管理者、使用実態、構造等を正確に把握しきれていない。

水位計等の観測施設を備えたため池は限られているが、全てのため池でこれを備えることは困難。

緊急時に安全かつ迅速に点検を行うことが必要。

【施設の補強対策に係る課題】

堤体のすべり破壊や土砂流入による決壊が発生。

【管理に関する課題】

使われなくなり放置されているため池や、管理者が将来の適正な管理に不安を抱えているため池が存在。

平成30年7月豪雨等を踏まえた今後のため池対策の進め方【概要】

～防災重点ため池の再選定と今後の対策～

- 国が示す新たな選定基準により、都道府県が市町村等と調整して防災重点ため池を再選定。
- 避難行動につなげる対策と施設機能の適切な維持、補強に向けた対策を効果的に推進。

防災重点ため池の選定基準： 決壊した場合の浸水区域(以下「浸水区域」という)に家屋や公共施設等が存在し、人的被害を与えるおそれのあるため池

なお、浸水区域については、貯水量と地形から推定することとし、これにより難しい場合は、氾濫解析をもとに浸水想定区域図を作成し、判定するものとする。

- 「人的被害を与えるおそれ」に関する具体的な基準
- ①ため池から100m未満の浸水区域内に家屋、公共施設等があるもの
 - ②ため池から100～500mの浸水区域内に家屋、公共施設等があり、かつ貯水量1,000m³以上のもの
 - ③ため池から500m以上の浸水区域内に家屋、公共施設等があり、かつ貯水量5,000m³以上のもの
 - ④地形条件、家屋等との位置関係、維持管理の状況等から都道府県及び市町村が必要と認めるもの

都道府県等が対策の進め方の方針を作成

緊急時の迅速な避難行動につなげる対策

ため池マップの作成 ため池の名称、位置(座標)等を記載	ため池データベースの充実 新たな防災重点ため池を調査し、データベースに登録等
緊急連絡体制の整備 管理者、市町村、県、消防、警察、国等の連絡網を整備	ため池防災支援システムの活用 迅速な情報収集・共有のためにシステムを活用
浸水想定区域図の作成 家屋等が少ないため池は、ハザードマップに代わって作成	水位計等による監視体制の整備 ため池の状況を速やかに把握するための水位計等の管理施設の整備
ハザードマップの作成 影響度の高いため池を優先	地域防災計画等への位置付け 緊急時の避難行動やため池点検の実施強化

施設機能の適切な維持、補強に向けた対策

保全管理体制の強化 地域又は都道府県を単位として、管理者の指導や災害時等の現地パトロール体制を構築	
補強対策 影響度の高いため池を優先	【総合的な整備】 <ul style="list-style-type: none">耐震対策 ・堤体の改修・補強、液状化対策など豪雨対策 ・堤体、洪水吐、取水施設など
ストックの適正化 ・利用されていないため池等を対象として、ため池の統廃合、廃止に必要な代替水源を確保。需要に応じ容量を縮小。	

全ての防災重点ため池で早急に実施